

第 71 回横須賀市文化振興審議会 書面会議概要

日 時：令和 4 年（2022 年）2 月 28 日（月）

出席者：吉田 彩子 委員長、秋岡委員、石川委員、崎山委員、西堀委員、
蛭田委員、藤井委員、山本委員、吉田秀樹委員、若江委員
事務局：高木課長、新野主査、遠藤主任

次第 1 令和 2 年度文化振興基本計画の進捗状況について

委 員：意見等はありません。

委 員：令和 2 年度はコロナ禍での対象事業の取組状況が分かる資料として、今までにない見方をしました。中止になったものも多いですが、実施された取り組みも思いのほかあり、文化活動の多面性を感じました。こういった状況でできることが系統的に認識できる資料として、今後の令和 3 年度と共に活かされると良いと思います。

基本計画の進捗状況とは直接関係ありませんが、コロナ後の文化活動について考える出来事がありました。

12 月に高校生主体の小規模パフォーマンスイベントに参加した折、生徒さん方が不慣れで不思議に感じました。

パフォーマンス自体にではなく、発表する前段階の打ち合わせやそれが必要だということもあまりわかっていない様子に少々違和感を抱いたのです。なぜならコロナ禍前は、各学校の生徒さん方は率先して立ち回っていて、自分たちが誰に何を伝えておけばいいかなど、よく理解していたからです。

想像してみると、コロナで今までのような市街での発表の機会もなく、どのようにやればスムーズに行くのかを後輩に伝える間もなく引退し、後輩の皆さんも先輩の現場での立ち回りを見ることなく、また一から始めなければいけないことが多々あるのでしょう。

それは、生徒さんに限らず周りの大人（保護者や先生）にも共通していることで、現場レベルで培われ申し送りされてきたノウハウが、コロナでの中止の間にリセットされてしまっているのだろうと感じました。

今後、いろいろな場面で同じような感覚を持つかもしれないと思いましたが、そういったことを念頭に配慮していくことができ

ばと気付かされる出来事でした。

委員：中止とならざるを得ない催事、窓口対応が多くご苦勞を伺い知りました。しかしながら、代案、フォロー体制に関する説明（記載）がない事業が多く気になりました（例：P. 25～学校教育関連）。今後は、『ではどうするか』を市民の方々に発信、ともに考えるという姿勢が大切と考えます。

委員：意見等はありません。

委員：新型コロナウイルス感染症の関係から、子ども向けの事業は中止であるが、この期間中により良く「これからの事業」のあり方を検討しておくべきであろうし、「継続すべき」はすべきであると思います。

見学会、都市間交流について、何らかの方法で実施できる方法を検討できないでしょうか。

子ども達への体験・見学などは非常に重要だと思います。

委員：コロナ禍にも関わらず、令和2年度実績において健闘した事業が予想以上に多くあったことに驚きました。関わられた皆さまのご苦勞の賜物と思います。

委員：意見等はありません。

委員：新型コロナウイルス感染症の影響下で多くの取組が実施困難となる中で、それでもできることを模索し、可能な限り実行なされた様子がうかがわれます。ご苦勞を拝察し、頭の下がる思いです。この度、おまとめいただいた「文化振興基本計画進行管理報告書（案）」を拝読し、以下、感想のようなものを述べさせていただきます。

（1）3ページのタイトル「文化振興基本計画 進行管理対象 一覧」は、9ページのタイトルと同じ形式になるのではないのでしょうか。例えば、2-（1）文化振興基本計画 進行管理対象一覧（政策体系別）黒字白抜きにするかどうかも揃えたほうが良いと思います。

また、表には掲載ページの欄がありますが、記入はされていません。最終的には、ページを示す数字が入るか、欄が削除されるの

だと思えます。念のためお伝えいたします。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業の評価について、「中止または内容等の変更により、これまでの基準での評価が難しい取り組み」に対して、「－：評価対象外」を追加したとあり、納得できます。

一方で、対象事業A評価の基準については、「概ね当初予定どおり実施した」とある(2ページ)にもかかわらず、上記に当たる*マークが付され、従来の規模に比べてかなり縮小された取組に「A」評価が与えられているものがあります。聴覚障害者のための「要約筆記者の派遣(20ページ)」、「コミュニティセンターでの学級・講座等の開催(22ページ)など」。「－：評価対象外」との区別が分かりにくいように思われました。

(3) なお、従来の形であれば、実施が難しいであろう取り組みが、HPでの公開やオンライン、リモートでの開催に切り替えて実施されていることは評価に値します。「児童生徒造形作品展の開催(26ページ)」、「美術館・博物館と学校教育の連携(27ページ)」、「まちなかをステージにした音楽ライブの場の創出・提供(65ページ)」、これらは新しい可能性として、コロナ終息後も継続して良いかもしれません。

(4) 指標については理解できました。

委員：意見等はありません。

委員：コロナ禍の中での様々な事業計画が思うような進展を見ることは難しく、令和2年度に続き、令和3年度も同様な状況であることは折角の機会が奪われてしまい、市民としてもとても残念です。しかしながら、この状況下での可能性を模索して、計画を進めていってほしいです。

個別の計画例としては、「P.22 生涯学習機会の提供」については、地域から広げて、日本そして世界へとつながる人物や歴史観を学ぶ機会となる講座を続けることで、高齢化する市民に学びの場となるので、ますます充実してゆくべきと考えます。

「P.36 地域の身近な歴史や文化の継承」について、この事業は様々に計画を実行して成果が得られているので、今後も継続実施してゆくべきと考えます。

「P.70 学校教育における文化活動の充実」について、横須賀美術館の学校連携事業の開催については、コロナ収束後には速やか

に再開してほしい。また、私どもの運営するカサヤの森美術館についても、近隣の中学校・高等学校生にぜひ鑑賞の機会を持っていただきたいです。

報告書について、75 ページありますが、とても理解しにくい編集に感じました。内容が重複する部分が多く見られ、もう少し簡略化してよいのではないのでしょうか。例えば、P. 37 の下段の表ですが、再掲として、P. 41、44、46、58 の合計 5 回も入っていました。年度表示も見やすい体裁を考えていただけましたらと思います。

事務局 : 令和 2 年度の進行管理結果報告書の作成にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止または内容等を変更せざるを得ない事業が多く、「－；評価対象外」という評価を追加しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、中止となった取組は「－；評価対象外」としましたが、可能な範囲で実施した取組については、どの評価が適切であるか大変苦慮しましたし、現在でも何が適切かは難しいと感じています。

本来であれば、客観的あるいは相対的な基準をもって、評価すべきと認識していますが、＜概ね当初予定通り＞ではありませんが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら可能な範囲で＜実施した＞ということの評価し、「－；評価対象外」でも「B：当初予定を下回った」でもなく、「A：概ね当初予定通り実施した」の評価をしている取組もございますこと、ご理解いただければと思います。

報告書の体裁については、次年度以降の課題として、検討していきます。

次第2 次期文化振興基本計画改訂作業について

委員：「資料2」に「基本計画は長期的視点に立ち、文化振興基本計画に基づく現行の計画を踏襲することを基本とする」とあることについて、基本的には賛成です。ただ、今次のような感染症等の不測の事態の時にも、文化振興活動が停滞しないよう（人と人との交流ができずに市民の生活が閉ざされる時こそ豊かな活動の支援ができるよう）、さまざまな柔軟な対応も可能にしておく必要性を、進行管理結果報告書を拝見しつつ思われました。

委員：意見等はありません。

委員：進め方、考え方については同意いたします。当審議会における方法論として、オンライン会議、メールの活用なども今後は視野に入れていただきたいです。横須賀市らしい改善が必要な時期になっていると思います。

委員：意見等はありません。

委員：今後、みこしパレード、カレーフェスティバル、民俗芸能大会などは必要であろうと思います。
近代歴史遺産を含む横須賀に存在する歴史文化遺産の活用を多角的に検討することは重要だと思います。
横須賀にある芸術文化資料の把握と活用の仕方を希望したいです。

委員：延長、市計画との整合性、いずれも妥当なご判断と思います。

委員：計画改訂作業については、イメージどおりで結構ですが、審議会の持ち方については、委員の皆様と意見交換をする場所と時間が必要と思います。

委員：意見等はありません。

委員：意見等はありません。

委員：意見等はありません。

以上